

Vories
cure&care

病院ホームページアドレス
<http://www.vories.or.jp/>



ヴォーリス
だより

2014年(平成26年) 1月1日 第79号

発行 毎月 1日
発行者
ヴォーリス記念病院
周 防 正 史
近江八幡市北之庄町492
TEL (0748) 32-5211
印刷
(有)東呉竹堂(ひがし印刷)

新年を迎えて

院長 周 防 正 史



明けましておめでとうございます。昨年一年を振り返ってみて、いろんな問題が浮き彫りになった一年と言えそうです。昨年の九月の台風一八号襲来時には、近畿一円で大きな被害が出ました。滋賀県も多くの地域で避難勧告が出ました。避難所に急がれた方や、身近なところで浸水被害にあわれた方も少なからずおいでではないでしょうか。裏山の山水で、北之庄の里も甚大な被害が出ました。ケアハウスが床上浸水し、訪問看護ステーションやヘルパーステーション、居宅介護支援事業所が入る新館の一階が浸水しました。カルテや書類、コピー機などの電子機器に大きな被害が出ました。職員に朝の5時から緊急招集をかけ、地域の消防団の皆さんや、自治会の方々の援助を頂き、ケアハウス、病院在宅部門とも人的被害はなく、なんとか乗り切れたのは本当に感謝してもしきれない事です。特に病院はその一週間後に病院機能評価の審査を控えており、災害からの復旧をしながらの受審でした。十月には九州の整形外科病院が火災で死者が出る甚大な被害を出しており、病院、介護施設の天災や火災に対する備えは本当に脆弱であることを痛感しました。幸いに病院機能評価は十二月末に、認定の報告が来ており、不測の状況でもしっかりとした対応をしてくれた職員とともに大いに祝いたい事です。

対外的にも変革の年であったと思います。東近江医療圏では、病院の機能分化がすすみ、地域のITネットワークが構築されようとしています。拠点病院、そのサテライトとしての亜急性期や慢性期を受け入れる中小の病院群が整備されてきました。さらに在宅診療が滞りなく受けられるように地域を担う診療所群を構築しているさなかです。ITネットワークは重要なツールとして期待されています。当院も一昨年導入した電子カルテを軸に東近江地域医療ネットワークへの参加を目指しています。在宅療養に係るネットワークも医師会を中心に稼働しています。病院と病院、病院と在宅、そのハブの中心にある当院の役割は年々大きくなると考えています。超高齢者社会は始まっています。地域で療養される独居老人をしっかりと地域で見守るためにも、老老介護に疲れた家族を追い込まないためにもネットワーク事業が大きな力になってくれるはずです。

リハビリ棟の工事が着々と進んでいます。リハビリだけでなく地域医療の核となるために、訪問看護ステーションも拡大しました。医療の標準化の中で、どここの中小病院も同じような機能を期待されています。その中での差別化が、必要不可欠です。綺麗な建物や景観だけでは患者さんは来てくれません。特別な診療科目や特別な疾患対応だけでは近隣の方の目を向けることはできません。ヴォーリス記念病院だけが持つ魅力は何なのか、そしてその魅力をどうすれば上手く伝えることができるのでしょうか。

W.M.ヴォーリス師召天50周年を迎える本年、近江八幡市、私どものグループで多くのイベントが企画されます。町が活性化することは良い事です。しかし私たちは、創設者の設立理念を思い起こし、その原点を今一度振り返る必要があります。

☆インフルエンザを予防するために☆

1. 予防注射をしましょう。
2. うがい・手洗いはこまめに。
3. 外出するときは、マスクを着用しましょう。

院内感染対策委員会

健康について

1 病棟 大西 喜美枝



健康には、身体的なものと精神的なものがありますが、今私はどちらも健康だと自分では思っています。『病は気から』とよく言われますが、これから先歳を重ねるにつれて身体が思うように動かなくなったら、きっと気持ちも沈んでしまうことでしょう。気持ちが沈むと体調をくずす可能性は多くなります。病気が先か気持ちが先かですが、私は今まではどちらかと言うと少々具合が悪くてもそのうち治るだろ

うと思っていました。その結果、2回も手術をするはめになってしまいました。1回目は足がだるくて整形受診したのに子宮筋腫でした。2回目は盲腸が破裂して腹膜炎をおこしていました。これからは過信せず、日頃から無理をせず体調を整えていこうと思っています。最近は30分～1時間くらい運動するよう心掛けいます。

在宅サービス部門だより

退院後の不安がなくなるように

訪問リハビリステーション 岸 本 美地彦



長い入院生活を経てようやく退院になりましたが、退院後今まで出来ていた動作ができるかどうか不安に感じたことはないでしょうか。こんな不安が少しでもなくなるように、退院後約3ヶ月間に集中的に訪問リハビリテーションサービスを利用できる短期集中加算をご存知でしょうか。

短期集中加算とは、週2回程度集中的に訪問リハビリを利用できることです。

訪問リハビリテーションとは、病気やケガや老化により、心身になんらかの障害を持った人のうち、外出困難な人や居宅生活上なんらかの問題がある人に対して、障害の評価・機能訓練・生活動作訓練・環境整備・専門的助言指導・精神的サポートなどを実施するものです。

私の担当させていただいている利用者様の中でも、退院後今まで通りに生活できるのか・入院前のように上手く歩けるのか・上手くお風呂には入れるのかなど、不安を抱えながら退院された方は少なくありませんでした。本人・家族様と一緒に訪問リハビリを利用していただくことで入院中には確認出来なかったことや、居宅生活をして気付いた問題点などを改善していくことで、退院後の不安が少なくなったとも聞いております。

退院後に訪問リハビリテーションの利用を御検討の方は、病院スタッフまたは担当のケアマネジャーさんに御相談ください。少しでも退院後の不安がなくなるようにサポートさせていただきます。

リハビリ体操シリーズ第5弾

今回は膝下から足裏にかけての体操です。やや難易度が高くなりますが、下腿部の動きの改善や機能向上が期待できます。スポーツをする方へは準備体操や、捻挫予防としても利用できる体操ですよ。お試しください。

下記の写真を 1回として、5回～10回を目安に行なってみてください。



①足を反らす



②指だけ曲げ握る



③指を握ったまま足首を伸ばす



④ ③の状態から指だけ反らす



⑤指を反らしたまま足首を反らす

今
月
の
聖
句

高慢には軽蔑、謙遜には知恵

旧約聖書 箴言 11章2節



チャプレン 安 部 勉

本当の強さとは何でしょう。

本当、という言葉が適切ではないかもしれません。「真実」とか「生きるうえでの」と言い換えた方がいいかもしれません。

権力を得て自分の思うように人を動かし、自分の考えにみんなが従う…どんな困難にあっても乗り越え、敵を打ち破り…そんな姿に「強さ」を感じるかもしれません。

強さは大切です。でも強さは時に弱い者の思いや人生を踏みにじることがあります。

「高慢には軽蔑、謙遜には知恵」

力ある者が驕り高ぶることに私たちは敬意を持つのではなく見下すこと、一方、遜ることの中に真実があること、そのように語られているかのようです。

権力を得、名声を得、そして金銭を得た時、私たちは「弱さ」を自覚する必要があるかもしれません。それぞれに「溺れてしまう」という弱さに。そしてその弱さは他人や自らを傷つけ、失望と虚無感を生むでしょう。そして軽蔑をも受けるのです。

聖書は「真実の力」は神のみが支配する、と考えます。私たちの高慢な政治的な振る舞いも神の前には朽ち去るものである、と。

そして、「真実の力」は「愛」と共にあります。「神の愛」と共に。

赦し、慰め、そして時に立ち止まり、弱さを受け止めること。我慢を求めず「助けて！」との言葉に耳を傾け、思いを受け止めること。それが神の愛。

そして聖書は真実の力である神の働きはこの世の力と対峙し打ち破るとも描きます。その手段は決して武力や恫喝、恐怖によってではなく「愛と赦し」をもって。

人の知恵、人の力が私たちを支配することはできません。良心、信念、価値観は人の力による支配は及びません。

「ただ神の愛のうちにあって自由に生きなさい。」私たちに呼びかける神さまの言葉に真実の力強さを感じたいと願います。



ヘルシークッキング 1月

七草粥 (1人分)

エネルギー 157kcal タンパク質 8.4g 脂質 0.6g (1人分)



<材料4人分>

- ・ごはん 300g (約茶碗2杯)
- ・七草 150g
- ・水 6カップ
- ・塩 少々

<作り方>

- ① 鍋にご飯、水、塩を入れて火にかけて煮立ててから弱火にして10分程煮る。
- ② 七草は塩ゆでにし冷水にとって冷まして(一度冷水で冷やすことで色が鮮やかになります。)水気を絞り、食べやすい大きさに切る。
- ③ ①の粥に②の七草を入れ、ひと煮立ちさせる。

1月7日と言えば「人日の節句」の七草粥ですね。「セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ」の七草が入った粥を食べて一年の無病息災を願う風習として日本人にとっては馴染みの深い風習ですね。1月7日は五節句の一つの「人日」で他にも「七草の日」や「七草の祝い」とも呼ばれているようです。

諸説ありますが、この七草を食べるようになった始まりは日本でなく中国でした。中国では毎年官吏昇進を1月7日に決めていました。その大事な日の朝に薬草である若菜を食べて立身出世を願ったのが「七草粥」の始まりと言われています。この風習が日本へ伝わり、年の始めに若菜を摘み自然から新しい生命力を頂く「若草摘み」という日本古来の風習と結びついて「七草粥」となり、平安時代には宮中行事として食べられるよう

になりました。しかし、この時はまだ日本に定着しておらず七草の種類も現代の「セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ」の七草ではなく時代や地域によって異なっていました。現代の七草となったのは室町時代とされています。やがて江戸時代にもなると七草粥は「人日の節句」(七草の節句)として五節句の一つになり定着していきました。

また、1月7日は松の内(1月1日 1月7日)の最後の日にあたります。七草粥の定着した背景にはお正月のご馳走に疲れた胃腸をいたわり、野菜の不足しがちな冬の栄養補給をする目的もあったのかもしれません。まだまだ寒い日が続きますが「七草粥」を食べて冬一番を元気に過ごしましょう。

報告1

意見交換会を終えて

総務課 小松 知史



私は、病院内の教育委員会の一員として11月18日から29日にかけて、『チーム力向上のための意見交換会』を企画、運営しました。

今年の春ごろに行った職員の満足度調査の結果に基づき、グループに分かれ、「部署を越えてチームとして今後どう取り組んでいけば良いか」ということを中心に話し合いました。10日間ではほぼ全員の職員に参加してもらい、グループ数は40グループにもなりました。1時間という短い時間でしたが、皆さん真剣に話し合い、とても重要で貴重な意見も多数出ました。発表された意見の中に「他部署との繋がりが

少し弱い」というようなものもありましたが、今回の話し合いを通じ、真剣に病院のことを語り合うことで他部署との絆が生まれ、繋がりも強まっていくのではないかと思います。そういった意味でこの意見交換会は大きな役割を果たせたのではないかと思います。これからこの貴重な意見を集約し、精査する作業に取り掛かります。まとめた意見を活かし、患者様のためにより具体的な行動に落とし込めるようにしていきたいです。

仕事の忙しい合間を縫って参加していただいた職員の皆さんに感謝します。ありがとうございます。

報告2

三方よし研究会 開催報告！

地域連携課 板谷 裕美



昨年11月21日(木)夕刻、第72回三方よし研究会が近江兄弟社学園の平和礼拝堂で開催されました。三方よし研究会とは、近江商人の教訓「売り手よし、買い手よし、世間よし」に習い“患者よし、機関よし、地域よし”の三方よし精神を目指して立ち上げられた東近江地域医療連携ネットワーク研究会の総称です。



今回は当院が当番機関となり、当日の企画・運営を始め、回復期リハビリテーション病棟での若年脳卒中患者さんの事例



報告をさせて頂きました。発表当日は障害者福祉制度に関する30分学習会のあと、退院先の調整に難渋した事例の他職種間連携を中心に、担当者4名が発表をしました。

事例報告にあたっては、何度も担当メンバーが

集結し、リハビリ内容やケア場面での関わり、行政サイドとの退院先調整に関するやりとりなどを振り返りました。社会経済的問題を抱え、退院調整に難渋するケースであっても、チームヴォーリスの専門職者が力を合わせ、多方向から問題・課題に向き合うことで、高次脳機能障害を抱えた患者さんが、安心して暮らしていける道筋を見つけれられた事例だったと思います。



年をとっても、認知症になっても、病や障害を抱えても安心して暮らせる町づくりに貢献できるよう、今後もチーム一丸となって、地域医療・



保健・福祉の充実に力を注ぎたいと思います。最後になりましたが、研究会の準備・開催にあたり、惜しみないご支援ご協力を賜りました皆様に、厚くお礼申し上げます。

報告3

管理研修を終えて

1病棟 神 千草子



ヴォーリス記念病院という歴史があって、地域でも大きな役割を担っている施設で、私たちが同じ方向に向かうために今、病院が何を目標しているのかしっかり伝えないといけない。また、部門別目標から各部署での継続課題、新規目標をスタッフみんなで確認し合いながらその目標達成のための具体的な動きを伝えるという役割が管理職にはある。

先生は《ながら発信》と表現されたが、時間をとって面談することも大切であるが、日々の業務の中でスタッフ一人一人に目配りし個々の目標を理解した上で目標達成に向けて日常の小さな行動を起こせるような関わりの大切さを学んだ。《ながら発信》は必ず自分で考えさせること、支援を約束すること、最終責任は負うことで、スタッフは目標に向かって行動できる。これがまさにコーチングであると思った。

経営上の配慮としてコスト意識をしっかりとって『質の良い労働力を提供して無駄はなくす』『仲間、相手が働きやすいように配慮する、届け出手続きの期限を守る』など職員が持つ権利と義務は必ずセットであることも伝えていきたいと思った。そのために私自身が就業規則を充分理解する必要があると感じている。

今回、管理職研修に参加させていただき、私たちがヴォーリス記念病院で働く目的や管理職としての立ち位置、自身の日常の具体的な行動など考える機会をもつことができた。研修を受けながら今取り組んでいるワークライフバランスと重なる部分があることも感じた。人生設計の中に働くということがある。充実した生活を送れるよう、やりがいを感じながら専門性が発揮できる職場を目指したいと思う。

報告4

感染対策委員会・医療安全委員会の研修に参加して

3病棟 村上美香



医療従事者は、病気や障害を持った人に専門知識と技術を行使し、その人らしい生活ができるよう支援する職種です。そのためには高度な専門知識と患者さんの生活を知り、受け入れる事も大切となります。本院では毎年定期的に感染防止対策、医療安全についての研修会で知識向上、情報共有を行っています。

12月半ばになり気候の変化も大きく、インフルエンザやノロウイルスといった感染症が流行してきているが、今回の研修では感染防止について技術の基本である防護用具の使用について改めて学びました。正しい手順を実践する事、医療従事者自身の健康管理も重要です。注射剤混注時の注意点に関しても学んだ。病院薬剤師会薬剤混注ガイドラインでクリーンベンチの使用基準も学びました。これに関しても自分自身の清潔、操作の清潔、廃棄物の処理などの点が重要になります。基本に戻り、感染予防の正しい知識を深めていきたいと思います。

医療安全については「コンフリクトとコミュニケーション」というテーマで学びました。認知齟齬によりコンフリクトが発生します。あるべき姿と現状、期待感と結果にギャップが生じて信頼関係を揺り動かすこととなります。このような場面を経験したことがあります。排泄交換時、下タオルを使用しますが、この使用前のタオルをベッドサイドに忘れて、シーツや患者さんの寝衣を濡らしてしまい、不快を与えてしまった事がありました。病棟で話し合い、肩より下げるバックを持ちタオルを入れて排泄交換を行うようになりました。それ以来そのようなことなくなりました。事実を受け取り、改善に取り組める姿勢と、一人一人担当した者が責任者である意識が大切となります。その積み重ねが患者さんとの信頼関係も深まりよりよいケアにつながると思います。

報告5

病院クリスマス会

礼拝堂チャプレン 安部勉



さる12月14日の夕、クリスマス会を外来フロアを会場に開催しました。当日は病棟の患者さん約50名、ご家族や関係者も合わせて80名ちかい皆さんでイエス様誕生の喜びをお祝いいたしました。

第一部は礼拝。今年入職された方を中心に約30名で聖歌隊を結成。チャプレンの聖書朗読、メッセージに続き讃美歌を披露しました。



第二部は彦根より毎年お迎えしているピアノとオルガンの女性二人組アール・イーによる歌のプレゼント。最近のヒット曲から懐かしい歌謡曲、そして唱歌も用意していただき、会場の皆さんと一緒に歌いました。最初から最後まで素敵な演奏に会場が明るい雰囲気に包まれました。

毎年クリスマス会には「おうみ作業所」のみなさんをお招きしています。今年も8名と一緒にクリスマス会を楽しみました。会の中で病棟の患者さんや職員から捧げられた募金をお渡ししました。おうみ作業所の皆さんからは「ヴォーリス記念病院に来るといつも暖かい思いになります」とお礼の言葉をいただきました。

そして聖歌隊からお越しになられた皆さんへ歌のプレゼントとして「君は愛されるために生まれた」というゴスペル曲を披露しました。

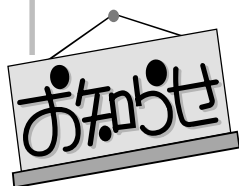
最後は会場の皆さんと一緒に「きよし このよる」を歌い楽しいひと時を終えました。

報告6 第208回 ミュージックタイム

さる2013年11月30日、「第208回 ミュージックタイム」を3病棟で開催いたしました。

今回はホスピスボランティアの飯田和子さんとお友達による音楽の贈り物。歌、フルート、そして皆さんと一緒に演奏も！会が進むに連れ、皆さんの表情が明るく朗らかになっていきました。楽しい一時本当にありがとうございました。





▶ 糖尿病及び生活習慣病教室のお知らせ

シリーズで月に一度、木曜日に糖尿病、生活習慣病に関して、実際の食事をご用意し、病気の知識や治療法についての教室を開きます。詳しくは管理栄養士か外来看護師あるいは担当医師にお聞きください。

日 時 1月23日(木)12:00~13:30

場 所 新館研修室(病院内)

講 師 医師

主治医の指示のもとに参加できますが、あらかじめお申し込みが必要です。



【新規採用】



11月15日 今井美沙希 (検査技師)

12月11日 大阪 明美 (ケアワーカー)

働く仲間を募集しています！

★看護師・訪問看護師・介護福祉士

“ケアの喜びと一緒に
感じませんか。”



詳細はお問い合わせ下さい。TEL 0748-32-5211 (担当：澤谷)

近江八幡市介護予防拠点事業 ヴォーリス介護予防教室のご案内(平成25年度後期)

回	日 程	担 当	内 容	講師予定
6	2月20日(木) 14:00~16:00	病院	「老いと嚥下能力 PART II」	ヴォーリス記念病院 言語聴覚士 甲斐 始

①対象者 おおむね65歳以上の方 定員:30名

②場 所 アンドリュース記念館(旧YMCA会館) 近江八幡市為心町中31番地(近江八幡教会の隣)

③参加費 無料

④申し込み 6回目2月18日(火)までに往復ハガキで①住所 ②氏名 ③年齢 ④連絡先電話を記入の上、下記の係りまでお申し込み下さい。

〒523-0806 近江八幡市北之庄町492 ヴォーリス記念病院内 介護予防教室 係 まで

お問い合わせは、ヴォーリス記念病院内

ホームヘルプステーション 担当 生駒 (Tel 32-7130 Fax 36-5458)まで

メディカルフィットネスセンター

会 員 募 集

あなたの健康づくりをサポート

安心して楽しく運動して頂けるよう、からだの状態を評価し、お一人お一人の運動メニューを提供致します。

受付時間 9:30~17:00

利用時間

月・水・木・土/ 9:30~17:00

火・金/ 9:30~20:00

定休日 日曜日・その他(年末年始など)

近江八幡市鷹飼町571

平和堂近江八幡店5階内

TEL 0748-32-5540

地域連携課

介護・入院・施設の入所等で、
お困りのことがあり
ましたら、お気軽に
お越しください。

正面玄関入って
左側です。



“患者サポート支援窓口”の設置

外来診療・入院生活・治療等についてお困りのことがございましたら
患者サポート支援窓口まで
ご連絡下さい。

(担当 塚本・岡田・加藤)